
異世界転生！！

咲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界転生！！

【Nコード】

N9848S

【作者名】

咲夜

【あらすじ】

オタクで邪道で不良の主人公、ほおさかれん朴坂聯が神の手違いで異世界へ！
！

転生！！

「ここはどこだ？」

何も無い真っ白な空間、其処に白髪の少年はいた。

少年はあたりを見渡すが、やはり何も無い。

「おぬしが朴坂聯か？」

聯と呼ばれた少年は後ろを向く、するとそこにはさっきまではだれもいなかったはずの場所に白い布を着た老人がこちらを向いてたらずんでいた。

「……だれだ？」

聯はいきなり現れた老人を警戒しながらそう言う。老人はそれを見て苦笑している。

「そんなに警戒せんでも大丈夫じゃ」

老人はそう言ってどこから取り出した紙を読み始める。

「朴坂聯、おぬしは死んだ」

老人は申し訳なさそうにそう言う、だが聯は全く動じていない。

老人は全く動じていない聯を見て驚いていた、それもそのはず、誰でも自分が死んだと言われれば驚くだろう、だが聯はまったく動じていない。

「……おい、お前は誰だ？」

聯は驚いている老人を見てそう言う。

「わしは神じゃ」

老人がそう言う、聯はやっぱりなと言う。

「俺はお前の手違いで死んだ……違うか？」

聯がそう言くと神は驚き固まっていた、どうやら凶星のようだ。

「神の手違いで死んだ俺は、チートな能力を貰い異世界へ転生させられる……ってところか」

「何故分かった？」

神はいまだに驚きながらそう言う。

「俺はオタクだからな」

聯は自慢げにそう言う。

「……自慢げに言うことではないと思うんじやが、まあいいわ、それで何の能力が欲しい？」

神がそう言くと聯は深呼吸をする。

「……まず、無限の魔力、魔力の質は最高に、属性は存在する属性全て、身体能力は神おも凌駕するぐらい、五感は最高に、第六感も最高に、アニメ、ゲームの能力を使えるように、森羅万象を扱えるように、世界の全知識、戦闘のセンス、存在する全ての武器を扱えるように、殺気も扱えるように、魔眼、心眼も、……つか

神にならせろ」

「……ま、まあいいじゃろ」

神は聯の要望を聞いて若干引いていた。

「じゃ、行ってこい」

神はそう言って聯を異世界へ転生させる

転生！！（後書き）

作者の咲夜です！！

こんな駄作を読んではいただきありがとうございます！！

盗賊！！

「…………あのくそじじい…………今度あつたら殺す」

現在は、上空五千メートルで地面へ落ちている途中。

「…………とりあえず…………＜創造…堕天の翼＞」

聯がそう言くと聯の背中に漆黒の翼が現れた、聯はそれを起用に使い、地上へ降り立つ。

それと同時に、

「キャーーーーー！！！？？」

女性の悲鳴が聞こえる。

「…………テンプレだな…………」

無視無視」

聯はそう言って悲鳴が聞こえた方向とは違う方向へ向かおうとしたが、

「あっ！！そこのお方！助けてくださいませんか！？」

悲鳴を上げていた女性と目が合い、呼び止められた。

だが、

「・・・・・・・・」

「えっ!？」

聯は聞かなかったことにして通り過ぎる。

「お前は馬鹿か？あんなひよろひよろな雑魚に助けを求めたって無駄だぜ」

すると女性の腕をつかんでいたごつい盗賊がそう言う。

「・・・・・・・・おい、だれが雑魚だって？」

聯は盗賊の言葉を聞いて立ち止まり、満面の笑み（目が笑っていない）で盗賊にそう言う。

「お前だよ、雑魚」

盗賊は笑いながらそう言う。

「おい、その女性、そいつから離れろ」

「は、はい」

女性は盗賊のスキを付いて盗賊から離れる。

「死ねく恋符マスタースパーク」

聯が手を盗賊に向けてそう言うと、聯の手から黄色の太い線が盗賊に放たれる。

「ぎゃーーーーーー!!?」

盗賊はマスタースパークをまともにくらい、倒れた。

お礼？

「雑魚が」

聯は膨れっ面でそう言う。

「あの・・・」

聯膨れっ面でいると、女性が弱弱しい声で話しかけてくる。

が、

聯は何もなかったフリをして通り過ぎる。

「お待ちください！」

女性は慌てて聯を追いかけた。

「……………（ぜってーアイツ何処かの王女だ……………めんどくさい

から無視無視)」

聯は顔を上げそんなこと考えながら歩く速度を上げる、女性は聯の速度に必死についてきていた。

「無視しないで下さい！」

女性は聯の裾をつかみ、大声でそう言う。

「・・・・・・はあ、めんどくせー・・・・・・何だ」

聯は小声でそう言い、めんどくさそうに振り返る。

聯は元々極度のめんどくさがりの為、自分のメリットになること意外には行動しなかった、なので今回も聯は無視していたが、軽く10分ほど付きまとわれたためにしょうがなく振り返った。

「ようやく返事をもらえました!!」

女性は聯が返事をしたため感動している。

「……何も無いなら付きまとうな」

聯は冷たくそう言い放ち、歩みを進めた。

「あっ！？待って下さい！！」

女性は慌ててそう言い聯を引き止める。

「用件があるならさっさと言え」

聯は呆れた顔でそう言う。

「私の名前はメア＝コーネルです。先程は助けていただきありがとうございます、お礼がしたいので私の「断る」え！？」

メアは聯が即答したため驚き固まっている。

「いや……ですか？」

女性は涙目でそう言う、更に聯より背が小さいため自然と下から視線になる。

お礼？
(後書き)

ヤンデレ？

「めんどくせえから行かねえ」

聯はそう言ってそのまま歩いていく。

「そこを何とか!!」

メアは涙目で聯の裾をつかみ、そう言う、だが聯はそれおも無視して歩いていこうとする。

が、

「・・・何デ着イテキテクレナインデスカ？」

「!？」

聯はメアの急な変わりように驚きそばから離れようとするが、

「フフフツ・・・アハツ・・・アハハハハハハハハハハハハハハハハハ」

メアは聯にどこから取り出したナイフでさす。

「っ！？＜細胞結合…再結合＞」

聯がそういうと、ナイフで刺された部分の傷が消えていた。

聯は瞬時にメアから離れ、翼を創り飛ぶ。

「アハハハハハハハハハハハハハハハハ」

メアは狂った表情で大量のナイフを聯に投げる

「何でいきなり壊れてんだよ！あれか？ヤンデレなのか！？だとしても展開が速すぎる！！」

聯はそう叫び、全てのナイフを素手で叩き落とす。

「アハハハハハハハ！！上級水魔法＜スプラッシュ＞」

メアがそう言うのと、大量の波が聯に襲い掛かる。

「・・・・・・はあ・・・・・・＜恋符…マスタースパーク＞」

聯は手のひらを波に向けてそう叫ぶ、すると手のひらから極太のレーザーが波に向けて放たれる。

波はレーザーによって打ち消された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9848s/>

異世界転生！！

2011年10月9日01時44分発行